

サラダクラブは、サラダの食文化の把握を目的とした調査結果について発表した。それによると野菜が高い時には「価格が安い他の物を購入し」、「野菜が高くなった」と実感する野菜は「キャベツ」、「レタス」が多く、葉物野菜の価格が目安とされていることがわかった。

今調査は5月30日から31日にかけてインターネット経由で東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県に住む20歳以上の男女に対して行われたもので、調査対象数は1000人(但し調査結果からは有効回答数は910人と推測される)。

野菜が高いときに代わりに購入するもの
気候の変動が激しい昨

今、野菜価格の乱高下も以前と比べると激しい。その日に購入したいと考えていた野菜が割高だった場合、どのような行動をとるかを聞いたところ、47・9%の人が「代りに他の物(種類)を購入する」と回答した。

キャベツとレタスの価格高

消費者心理に大きく影響

サラダクラブが調査

そのなかで、具体的に何を

買うのかを聞いたところ、最多回答項目は「安い野菜を買う」で9割近く。次いで「冷凍野菜を買う」「野菜ジュースを買う」「パッケージサラダを買う」の順だった。

「冷凍野菜」や「パッケージサラダ」は、生の野菜

ない。しかし、最近では冷凍技術が進んできているのと、そのまま調理できる手軽さが、働く女性たちに「時短料理ができる食材」と人気が出てきている。

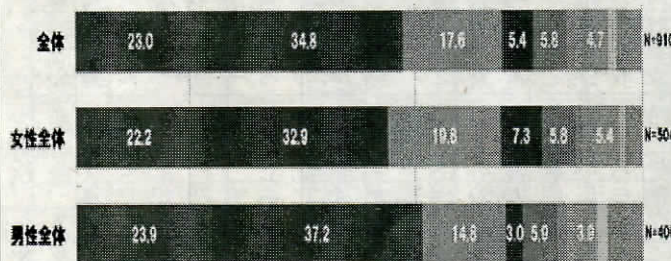
野菜高騰は「キャベツ」「レタス」で実感する

次に、野菜が「高値を付けている」「高くなったと感じる時に、どの野菜を見てその高さを実感するかを聞いたところ、最多回答数を集めたのは「キャベツ」だった。

全体で34・8%と、3分の1を超え、人が「キャベツが高」と野菜全体の高さを実感する」と答えている。次いで多いのは「レタス」で23・0%、「トマト」で17・6%。ここまですべてがボリエムゾーンで、そのあとは「ケタ台が続く。結果、「キャベツ」や「レタス」など葉物野菜の価格が、野菜購入者に与える心理的影響の大きさを、あらためてうかがい知ることができる。

男女別に見ると、葉物野菜を答える男性は多く、女性には「トマト」でやや男性を上回る。摂取頻度や好き嫌いの違いが出てくるものと思われるが、第4位以降は女性のほうが他の種類をあげており、バラつきが見られる。

野菜が高くなったと感じる野菜



※レタス ※キャベツ ※トマト ※キュウリ ※ほうれん草 ※玉ねぎ ※じゃがいも ※白ネギ ※青ネギ ※その他

れやすい。近年は猛暑や干ばつ、さらには豪雨など「異常気象」と呼ばれる天候が続く、野菜の乱高下も激し

野菜価格は天候に左右され、米提案や、米